

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校</p> <p>1. 進路実現に向けて、よく勉強する学校 2. 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 3. 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」の項目における肯定的な評価が、昨年度より10ポイントの増加となった。観点別評価の年次移行に伴い、多様な学習評価を生徒自身も感じている結果である。評価の振り返りが指導者の学習指導の振り返りとなり、生徒の学力向上につながる学習指導へつながるサイクルとしたい。</li> <li>・「学校は、授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている。」の項目の肯定的な評価が、昨年度より10ポイント以上の増加となった学年もあった。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、ICT機器の有効活用が今後より一層重要な課題である。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇教科指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の特徴を生かし、学習意欲を喚起し深い学びを得る授業の推進</li> <li>・学科の特性に応じた生徒の将来につながる授業の推進</li> <li>・授業規律・学習環境を大切にするとともに、見通しをもった授業の推進</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議や各教科会において情報共有を図り、多様な評価方法を検討する。</li> <li>・ICT機器の有効活用を進めるために、各種の研修講座を通じて研鑽する。また、学科の特性に応じた活用方法について推進できるようサポートを行う。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「育みたい資質・能力を引き出せる観点別評価の研究」、「よりよい教育実践のためのICT(情報通信技術)の有効活用」を本年度の学習指導における校内の全校統一テーマに設定し、学習指導内容の精選及び生徒の学習意欲の向上に努めます。</li> <li>(2) ①の推進のために、教員間の研修を重ね、授業の改善に取り組みます。</li> <li>(3) 「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」を継続して実践し、その取り組みを高める支援を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「学習目標を明確にした授業」「言語活動の活発な授業」により、生徒の学習意欲が向上し、定期考査ごとの成績不振生徒数が減少する。</li> <li>(2) ICTの有効活用に関するアンケートで、昨年度比を上回る。</li> <li>(3) 生徒による授業評価を実施し、授業への満足度が平均80%以上となる。</li> </ul>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議や教科会で課題を発見し、情報共有と指導改善に役立っている。</li> <li>I C T機器の有効活用を進めるために、各種の研修講座を実施した。</li> <li>5月と11月に実施した公開授業週間で、教員間で授業参観や研究授業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観点別評価が生徒の学力向上につながったか。</li> <li>②学校全体として組織的に取り組めたか。</li> <li>③学習意欲を喚起し深い学びを得る授業を実施できたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果・課題	<p>○生徒への授業アンケートにおいて「意欲的に学習に取り組んでいる」、「授業に積極的に参加している」に当てはまる回答した生徒は、全学年を通じて80%以上であった。「目標を明確にした授業」「生徒が主体的に取り組む授業」「言語活動の活発な授業」が各授業で実践され評価へとつながっている。</p> <p>○I C T機器を活用した学習活動も定着しつつある。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるため有効活用されていることが、生徒を対象とするアンケート結果からも読み取れる。また、慣例的に行われている業務や行事について、I C T機器を活用して精選を行うことができた。</p> <p>▲生徒を対象とするアンケート結果から「総合的な探究の時間の充実度」が他の項目と比べると否定的評価の割合が高い傾向（昨年度よりは改善）にある。</p> <p>▲定期考査ごとの成績不振生徒数は減少しているが、成績優秀者の上位層も減少傾向にある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員間の情報共有を図り、普段の授業から課題や改善策を上げ、一層の個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。</li> <li>「総合的な探究の時間」を学校全体のテーマとして捉え、教科横断的な授業及び家庭学習に結び付けた研究をさらに進めながら、生徒の探究心の高揚や進路選択につながる実践内容の検討。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や中学生に向けて、参加型の学習成果発表会を平日以外での開催を検討してほしい。</li> <li>学習におけるI C T機器の有効活用や授業改善は、上級学校でも重なる部分が多い。</li> <li>公開授業週間の参観アナウンスをもっと地域に広げてはどうか。</li> <li>他地区では高校と企業がコラボした商品開発を地域のPRにつなげている。本校でも発展的な挑戦をさせてはどうか。</li> <li>「総合的な探究の時間」において探究活動の楽しさを伝えてほしい。探究活動の進め方や学びを大切にしてほしい。</li> <li>販売実習等において、薄利多売による販売戦略から付加価値をつけた値上げによる利益確保ができるような視点を持って学びにつなげてほしい。</li> </ul>
--

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校</p> <p>1. 進路実現に向けて、よく勉強する学校 2. 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 3. 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇生徒指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、各分掌、管理職及び外部機関との連携を通じて情報共有している。</li> <li>・不登校や発達障がい等の対応について、生徒理解が不十分な面があった。特性を理解し、学校、家庭及び外部機関との連携を密にすることが大切である。</li> <li>・制服やその着こなしなどのルールについて、保護者等外部に対して積極的に理解を求めていく必要がある。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規律、授業規律の確立</li> <li>・自他の人権や生命を尊重する意識の確立</li> <li>・問題行動等（いじめを含む）の未然防止と事後指導の充実</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で積極的に情報を共有し、共通理解と共通指導をする。</li> <li>・職員が危機意識を高く持ち、些細なことも見逃さず、早期発見・早期対応・早期解決に努める。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、授業態度などの生活指導において、職員間の情報共有を図り、生徒に指導します。</li> <li>(2) いじめ調査や生徒観察により、職員の共通理解を図り、情報共有することにより、いじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル（SNSの正しい使用等）意識を高めます。</li> <li>(3) 問題行動の未然防止に努め、生徒への指導を行います。また、関係職員と外部専門家等との連携を密にし、早期発見・早期対応・解決に努め、事後指導まで粘り強く行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 規範意識をもち落ち着いた学校生活が送れている。また、正しい服装の着こなしができています。</li> <li>(2) いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等使った問題のある画像の製造・所持・ばらまきや誹謗中傷を0にする。</li> <li>(3) 問題行動の件数が前年度より減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。</li> </ul>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの職員による昇降口指導を行うことで、制服の着こなしルールを理解し、普段の生活における規範意識を高めている。</li> <li>・啓発活動等の効果もあり、SNSの問題は減少している。いじめに関しては、アンケート等により早期に発見し、対応できている。</li> <li>・問題行動の未然防止に努めるとともに、職員の共通理解を図り、日常生活の中で注意喚起をこまめに行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 過去年度との比較</li> <li>② 生徒保護者による学校評価</li> <li>③ アンケート結果の検討</li> </ul>	<p style="text-align: center;">(A) B C D</p> <p style="text-align: center;">(A) B C D</p> <p style="text-align: center;">A (B) C D</p>
12 成果 課題	<p>○学校規律や授業規律はよく守られており、身だしなみも良くなっている。</p> <p>○近年、豪雨や台風等の災害が増えていることを踏まえ、生徒の災害対応能力の養育を更に図っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ▲多方面においてMSリーダーズがさらに活躍できるよう、生徒の主体性を大切にしながら計画していく。</li> <li>・ ▲自転車通学生徒のヘルメット着用を奨励していく。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">総 合 評 価</p> <p style="text-align: center;">A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSの使い方や情報モラル、交通安全に関する指導は年間を通じて行っていく必要がある。</li> <li>・ 18歳への成人年齢引き下げによる生徒の環境の変化を見守り、必要に応じた支援や指導をしていく。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者の質の高さはもちろん、発表を聞く姿勢が素晴らしかった。</li> <li>・平日のアルバイトを制限するのではなく、個人の裁量に任せるような指導を検討してはどうか。</li> </ul>
---

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立益田清風高等学校 学校番号 56

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>【教育目標】 理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神をもった人間の育成を図る。</p> <p>【めざす学校像】 地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校</p> <p>1. 進路実現に向けて、よく勉強する学校 2. 部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 3. 端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての自覚を持ち、自ら学び、考えることを通して、進展する社会に主体的に対応できる生徒</li> <li>・一人一人の興味・関心や能力・適性を活かし、豊かな創造力を培い、生涯にわたってグローバルな視点で学習できる生徒</li> <li>・地域の人々に対する思いやりやふるさとの文化や自然を愛する心を育み、多様な人々の互いの人格を理解し、協働して課題解決ができる生徒</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見力・課題解決力を育成するための多彩な科目による「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・地域と連携し、他者と協働できる豊かな人間性を育む「探究的な学び」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力と発信力の育成</li> <li>・将来のキャリア形成につながる幅広い基礎的学力を身につけ、生徒の個性や長所を伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で学んだ基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、より高度な学力を身につけたい生徒</li> <li>・お互いの個性を認め、異なる文化や歴史を尊重できる豊かな感性や、たくましく生きるための力を身につけたい生徒</li> <li>・地域と連携した探究活動等の多様な活動に取り組むことを通して、理解力、思考力、協働力、探究力を身につけたい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が自分の進路に真剣に向き合っているが、安易な進路選択をする生徒や、なかなか進路を自分のこととして考えられない生徒が一定数存在する。</li> <li>・アンケートの進路関連項目では、生徒・保護者とも概ね肯定的な評価をしているが、約20%の保護者が「わからない」と回答しているため、進路の情報が保護者まで届くような工夫が必要である。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供・ガイダンス機能の充実</li> <li>・キャリア教育の推進</li> <li>・地域を活性化する人材育成</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年会で情報共有を図り、連携を深める。</li> <li>・各学科と連携し、各学科の特色を活かしたキャリア教育や外部との連携を図る体制を整える。</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>①地元企業ガイダンスや進学ガイダンス、職場体験学習、企業見学会、地元社会人講話を実施します。</li> <li>②キャリア・パスポートを活用し、学校生活を通して、進路及び卒業後のキャリアに必要な能力を養成します。</li> <li>③保護者対象進学・就職説明会や、地元企業ガイダンス、地元企業の方による模擬面接を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①アンケートの進路関連項目の評価が向上する。また、行事ごとに実施するアンケートで生徒及び講師等の評価が向上する。</li> <li>②生徒が学校生活で目標を定め、行動を起こし、それを振り返ることで、自らの成長を実感することができる。</li> <li>③地元就職率が向上する。</li> </ul>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナの影響もなく、各学年の段階に応じた進路ガイダンス及び進路行事を計画通りに実施することができた。</li> <li>学校生活のなかでキャリア教育を意識することで、自己の在り方や役割を意識することができた。</li> <li>地域の教育力を活用し、地域で生活し働くことの魅力を考えさせる行事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒や保護者が情報を適切に把握し、進路実現に活かすことができたか。</li> <li>②生徒が自分の適性を把握し、進路実現に向けて主体的に取り組むことができたか。</li> <li>③地域の各機関との連携が取れたか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成 果 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各進路ガイダンスやキャリア教育を通して、単なる出口指導ではなく、自分の生き方や職業選択について考えさせることができた。</li> <li>○生徒アンケートでは、進路関連項目に関して、全体で80%以上の生徒が肯定的に評価し、学年が上がるごとに評価が上がっている。</li> <li>▲「総合的な探究の時間」や「課題研究」等の活動が、キャリア教育の深化や進路実現につながるよう、各学科との連携を深めていく必要がある。</li> <li>▲クラスごとに行う進路行事やキャリア教育においては、事前の打ち合わせをしっかりと行い、共通理解のもと、同一の指導をする必要がある。</li> </ul>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2年次生のアンケートからも概ね肯定的な評価を受けているが、「わからない」と回答している生徒が10%程度存在するため、低学年のうちに進路に対する意識が学年全体に浸透するよう、改善する必要がある。</li> <li>進路や将来に対する意識が低い生徒に対しては、一部の教員で抱え込むことなく、分掌や学科の担当者とも連携し、組織的に対応する必要がある。</li> <li>地域との協力体制をさらに充実させ、地元就職を希望する生徒を確保していく必要がある。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元就職者が減少し、残念である。地元就職が増えるような対策が必要である。</li> <li>普通科の生徒の進路目標をはっきりさせ、学力のレベルアップが必要である。</li> <li>高校入学前に、各学科によって卒業後の進路選択の幅が異なることを知らせる機会があるとよい。</li> <li>大学入学共通テストの受験者数が少ないのではないか。近隣の国公立大学の合格実績は、中学生やその保護者へのアピール材料になる。</li> <li>看護や医療の分野でも地元の人材が不足している。1, 2年生の進路を決めていない生徒に対してガイダンスを行えないだろうか。</li> </ul>
--